

協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.110



3月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail: kankou01@syd.odn.ne.jp

URL: <http://www.kankou-fa.jp>

2017年3月8日

平成29年度を迎えるにあたって

副会長 涌井史郎

万年副会長を務めさせて頂いている立場から協会活動に携わっていて常に感じるのは、会長をはじめ多くの執行役の若返りの効果が大きく、失礼な表現ではあるが実に頼もしい。とりわけ掲げたスローガンを、ある意味での技術者集団という協会の特性を活かし、観光界に具体的な姿として可視化し、印象深い姿でその主張への理解と浸透を図る戦略的努力が大きい。

その一つの好例が、ホテルショーの会場づくりと演出プログラムの充実であろう。そこには協会会員諸氏の日常の活動の積み上げが表現されている。例えばエコ・小からエコ達人村へ発展を見せた中から、課題解決策の一環として、いち早く木材の利活用に取り組み、また旅という側面を会員以外の組織と手を組んで地域の活力の資源を発掘しつつ多くのコラボレーションを誘発する為の「たびむすび」などという素敵な企画が運営されていることに、やや自画自賛ではあるが老幹部として拍手を送りたい。

今観光界は専らインバウンドに目が釘付けとなり、2020年後に備えて国内観光と訪日観光戦略の両立と、その質的戦略の検討を深めるべきにも拘わらず、ややもすると訪日外国人数などのこだわった量的拡大にのみ関心が集まっている。

国立公園満喫プロジェクトの座長の立場からも、またツーリズム・エクスポ審査委員の一員としても、

常に主張しているのは、多様で様々なニーズに即したメニューの提供が可能な観光の受け皿を整備することである。

量の拡大もさることながら、富裕層などにも十分対応できる観光の質、受け皿の豊かさや奥行きが重要である。それが結果として観光産業界の経済的体積の増進に繋がり、内閣が狙う成長戦略の一翼を支えることとなろう。

つい我々は、自分の財布の中身で他者の財布の中身を考えがちである。世界には多くの財布があり、時に我々の想像が及ばぬ価値に財布を開いてくれる。旅とはある意味で不安からの脱却や、明日への啓示を受けるといった本質がある。日本という国がただ美しい、物珍しいという視点のみならず、街にあふれるベンディングマシンに興味集中したり、渋谷のスクランブル交差点に多くの外国人が訪れたりする光景からもわかるように新たなライフスタイルやそれを起源とする製品や商品に引き付けられる。

そうした中で常に観光の本質に迫ろうとする本協会の姿は、必ずや高く評価されるに違いない。取り分け、点ではなく面としての観光地の整備、それをつなぐ試みなど空間と施設から観光の本質に迫ろうとする姿勢は、ある意味で最も意味あるオリンピックレガシー、或いはビヨンド2020を探る動きとなるのではなかろうか。

HOTERES JAPAN 2017 報告

ホテルズ実行委員長 浅野一行

2017年第45回国際ホテル・レストラン・ショーが2月21日(火)～24日(金)に開催され、昨年より500名程多い約56,400名の来場者を得て、盛況裡に終えることができました。

協会CSV活動もようやく軌道に乗り、様々な成果が昨年の中間報告会で発表されましたが、全員参加のCSV活動の流れをくみ、今年からホテルズショーへの主催者出展も協会会員全員で取り組みました。持続的なテーマとして掲げた「日本のこころ」のもと、恒例の「旅するこころ」「木づかいのこころ」「匠のこころ」「エコ・小のこころ」の4つのテーマ展示・セミナーに加え、出展エリアの規模拡大に伴い増設された「交流部会」と「耐震研究会」の展示・セミナーを合わせ、合計23小間(207㎡)での出展となりました。内容もますます磨きがかかり、多くの協会員の皆様の数か月にわたる支援と努力の賜物に、多くの来場者が興味深く見入っていました。

また、今年もショー全体のセミナー「ホスピタリティデザインセミナー」の一部を、「ホテル・旅館の開発&デザイン—最新潮流2017—」と銘打って主催しました。オープンしたばかりの話題のホテル・旅館を取り上げ、実際に開発に携わった事業者・運営者・設計者に直接登壇して頂くこのセミナーは、相変わらずの人気で多くの聴衆を集めました。

来年に向けては、全員参加の取り組みをさらに強められるようにしていきたい思います。

建築部会の活動方針とこれからの予定

建築部会長 崎山 茂

交流部会を構成する建築、設備、インテリア各部会では見学会やセミナーを会員の情報収集、人的交流の場として継続的に開催しています。

建築部会では昨年夏に天王洲から羽田沖を廻って浅草に上るルートで、まちふねみらい塾と水上セミナーを共催しました。これまでの新築ホテル、旅館の見学会とは趣を変え、東京のこれからの観光資源やインフラを探る試みでした。これに続いて10月には現在行方が見えなくなっている豊洲新市場の見学会を行いました。

2020年に向けた様々な開発が湾岸地域をどのように変えていく可能性があるのか、東京の観光資源という視点から来年以降も引き続き注目し、会員と共有すべき情報を探っていきたいと思います。

設備部会の活動方針とこれからの予定

設備部会長 小川正晃

2016年度、設備部会は交流部会として、これまで3回のワーキングと見学会を1回開催し、今月末には残りの見学会1回を予定しています。

交流会では、エコ小委員会が担当した、長野県の温泉地における地域エコ小活動及び国交省主催宿泊業の生産性向上推進活動事業についての講演や、定例となっている地球環境に関する最近の動向に関する勉強会を開催しました。また、見学会では地域冷暖房拠点として建設された「東京ガス田町スマエネ」の見学を実施しました。今年度最後の見学会は、3月22日に自立型水素エネルギー供給システムの実証・PR施設である「東芝水素エネルギー研究開発センター」を開催します。

新年度となる来期は、設備部会交流部会を3回、施設見学交流会を2回予定しているほか、交流会会員相互の懇親を深める行事を開催し、交流会のさらなる活性化を図りたいと思います。

インテリア部会の活動方針とこれからの予定

インテリア部会長 寺本昌志

インテリア部会ではこれまで通り四つのグループがそれぞれ担っている目的に合わせ活動を進めていきたいと考えています。

『セミナー』グループでは、観光関連で注目されている人をお話頂き、会員の皆様にホットな話題を詳しく知って頂くセミナーを開催いたします。

『施設見学』グループでは新規ホテルを中心とした小規模な見学会をタイムリーに開催し、会員の皆様に新しい施設を知って頂く機会を作っています。

『企業見学』グループでは会員企業を中心に製品作りや製作技術について見学させて頂き会員同士の交流をより深める活動を行っています。

『新情報発信』グループでは観光情報に関連する広域な範囲での話題を会員の皆様に、より専門的に知って頂く為、研究会形式でセミナーを開催しています。以上の様な内容で今後も部会活動していき

と思いますので、会員の皆様の積極的なイベント参加を宜しくお願い致します。

賀詞交歓会 報告

1月10日ホテルメトロポリタン・エドモントにおいて平成29年賀詞交歓会を開催、192名の会員が新年を寿ぎ相互に交流を深めあいました。

年頭にあたり、鈴木会長より「世界情勢の先行き不透明な時代に突入しているが、人は不安になると動く傾向があり、観光にとっては好ましい年になるのでは。またサービス産業の生産性の低さが指摘されているが今後の伸び代が多いともいえるとの期待感。地方創生に繋がる林業復活を国産木材利用についての研究によって地方の観光に貢献する考えである」との挨拶がありました。

観光庁・西海観光産業課長よりご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。

平成29年度通常総会 開催日及び会場について

来る平成29年度の通常総会は6月14日(水)九段のホテルグランドパレスで開催することにしました。総会後の講演会は講師に(株)小西美術工藝社 社長デービッド・アトキンソン氏を予定しています。

第108回ゴルフ会の予告

恒例の国際観光施設協会の秋のゴルフコンペを下記のとおり開催致します。

日時：平成29年5月11日(木)
コース：岡部チサンカントリークラブ(埼玉県深谷市)
プレイ費：約18,000円(キャディ付・昼食付・パーティ付)各自精算
会費：4,000円

コンペ終了後は表彰式と懇親会、賞品も多数用意しております。会員の皆様の親睦の場として、お誘いあわせのうえ、多くの参加をお待ちしております。

▼編集後記▼

2月21日より開催された第45回国際ホテルレストランショーが今年も大盛況の裡に無事に終了しました。「日本のこころ」をテーマにした当協会のブースは、木材と和紙を使用した2本の掲示塔がイメージ通りの設えで分かりやすく、中央で振舞まわられた緑茶の接待も日本の伝統「和」が感じられる良い雰囲気でした。当協会の展示は、4つに分けた其々のテーマが解りやすく表示されていて、全体の展示の中でも特別な「技術者集団のコーナー」であることが明確に示されていたと思います。

今後益々力が発揮できますように全員参加で盛り上げて参りたいと思います。 Y. K